

「東郷学園義務教育学校の鳥丸（上地区）の鷹踊り伝承活動の取組」

1 学校名

薩摩川内市立東郷学園義務教育学校

2 学年・人数

5年生～7年生 計26人

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和5年9月～10月 ふるさと・コミュニケーション科(本校6年1組)
令和5年11月1日(水) 学園祭りハーサル(本校体育館)

(2) 発表の日時・場所

令和5年11月2日(木) 東郷学園義務教育学校学園祭(本校体育館)

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

(1) 名称

鷹踊り(たかおどり)

(2) 由来

昭和30年代から、旧東郷町鳥丸地区(鳥丸上自治会)と旧宮之城町泊野地区は、地理的に近く、毎年春には、花見をしながら親睦を深めていた。その席で披露されたのが、泊野地区の「鷹踊り」であった。鳥丸上自治会では、それまで踊り継がれているものがなく、泊野地区の「鷹踊り」を見て気に入り、泊野地区の鷹踊り保存会長にお願いし、本格的に習い、踊り方を少し変えて、踊られるようになった。

(3) 構成等

男女が一組になり、男子は鷹を、女子は餌さし棒を持って踊る。三味線や歌、太鼓に合わせた拍子木の音も軽やかに、鷹を手に持ち踊る袴姿の男性と、餌さし棒を持った絁着物にたすき姿の女性とが、掛け合いをしながら踊りを進めていく。

5 保存会や地域との連携の具体

平成5年から平成23年までは、旧鳥丸小学校の児童が、鳥丸上自治公民館に行き、平成24年からは、練習会場を旧鳥丸小学校体育館とし、鷹踊り保存会の方々に来ていただき、継承活動を行っていた。

旧鳥丸小学校が平成29年3月に閉校されるに伴い、平成29・30年度は再編先であった旧東郷小学校にて、令和元年度からは東郷学園義務教育学校にて、ふるさと・コミュニケーション科における「地域を学ぶ学習」の一つとして、本活動を行っている。

鷹踊りで使用する道具については、鳥丸地区コミュニティセンターよりお借りしている。現在は、鷹踊り保存会の方々も高齢になり、児童生徒へ直接御指導をいただくことが難しくなっているために、ビデオを参考にしながらの活動となっている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

鷹踊り保存会の方々の高齢化に伴い、鷹踊りの存続が危ぶまれている状況がある。

学校においては、各地域に伝わる伝承活動を継承する観点から、今後もふるさと・コミュニケーション科の学習としての取組を続けていく予定である。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



【「鷹踊り」について学ぶ学習】



【学園祭での発表】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【児童生徒】

鷹踊りが今踊られていないことを知って頑張って覚えて踊ろうと頑張った。積極的に発表をする人に手を挙げたので、他の人よりも達成感を感じることができた。これからも鷹踊りを忘れないで踊れるようにしたいと思った。

【教職員】

地域の思いを子供たちに感じとってほしかった。そこを大切にしていかなないと伝統文化に関する学習が深まりのないものになっていく。そういった意味で、調べ学習やインタビュー学習で学んだことを鷹踊りに結びつけるようにした。鷹踊りの意味や価値を教師側も熟知しておく。

【保護者から】

鳥丸地区出身の保護者としても、このような発表をしていただき、嬉しく思います。子供たちが真剣に踊る姿を見ていると、確実に伝統が伝わっていくのだなあと思いました。

【地域・保存会の方から】

子供たちが毎年鳥丸地区の伝統芸能を学び、そして発表までしてもらい感謝している。保存会の皆さんも喜んで教えている。また、子供たちが鷹踊りについてよく学習していると思う。ぜひ、鷹踊りが継承されていくことを願っている。そのためにも、保存会と学校が連携しながら、この取組を続けていきたい。